

2021
8月

Sasaiレポ

発行/佐佐井株式会社
北九州市小倉南区上曾根新町 2-25
☎093-472-1335
FAX 093-472-1790
http://www.bf331.com

主食米 最大6.5万㌔削減

需要量、想定下回る

農水省は29日、2021年産の主食用米の作付面積が、前年実績より最大6.5万㌔程度減る見込みになったと発表した。同省が需給均衡に必要とみる同6.7万㌔の削減をほぼ達成した。一方、21年産米の需給の目安となる22年6月末の民間在庫量は210万㌔の見通し。適正水準の180万~200万㌔を上回り、作況などによっては余剰感が出る可能性もある。

同日の食料・農業・農村政策審議会食糧部会で示した。21年6月末の民間在庫量は219万㌔。2月時点では最大212万㌔と見通していたが膨らんだ。20年7月から1年間の需要量は新型コロナウイルスの影響で前年比10万㌔減の704万㌔となり、2月時点の見通し(711万~716万㌔)も下回った。

ただ、21年6月末の民間在庫量のうち33万㌔は国の「米穀周年供給・需要拡大支援事業」の対象となる見通しで、市場には21年11月以降に徐々に出回る。同省は今秋の余剰感は回避できるとみる。

—日本農業新聞 2021.7.30

冷凍宅配、30メニューに拡大

ゴーフード

糖質を制限した冷凍食品の開発と宅配を手がけるスタートアップ企業のゴーフード(東京・港)は、商品開発を加速する。現在はハンバーグやパンなど約10種類のメニューを販売しているが、魚などに対象を広げ今夏をメドに30種類へと拡大する。糖質制限は、食後の血糖値上昇を抑え、糖尿病などの疾患予防につながるとされる。健康志向の高まりを背景に需要拡大を狙う。

ゴーフードは20年から冷凍食品の宅配サービスを展開している。低糖質で高たんぱくのメニューを自社開発し、提携先の兵庫県尼崎市の工場などが製造を請け負う。ウェブサイトですべて注文を受けつけ、全国に配送する。

—日経 MJ2021.6.2—



小豆10㌔収404キ。実現

地力増強と倒伏対策両立

北海道帯広市の久保田満雄さん(56)は、小豆の生育を高める土づくりと倒伏対策を両立し、10㌔当たり404キ。と多収生産を実現する。倒伏は、適正施肥や品種「きたろまん」への転換など多面的に対策。除草剤と中耕で間断なく雑草を抑え、余分な労働も減らす。特産のナガイモなど園芸品目との多角経営にも取り組み、地域農業をけん引する。

作業を効率化することで、園芸品目に手を掛ける時間も生まれる。久保田さんは地域を代表するナガイモ生産者の一人で、JA帯広かわにしひの生産組合支部長も歴任した。

—日経 MJ2021.7.24—



レジ袋有料化1年

マイバッグ招く万引き

プラスチック製レジ袋の有料配布が義務化されて1年。スーパーに加えて直売所も万引の増加という新たな課題に直面している。来店客がマイバッグを使うことで、会計済みの商品かどうか見分けにくくなったことに直売所側は対応に苦慮している。

「万引するのはごく一部。利用者を疑っていると思われるのもつらい」と葛藤を打ち明ける。ほとんどは、マイバッグを畳んだ状態で買い物をして、生産後に広げるといふ。

同店は、防犯カメラの増設を検討中だ。だが「直売所は地域の交流拠点。温かみのある店の雰囲気壊したくない。費用面でも限界がある」とジレンマを抱える。

「客へのあいさつといった声掛けは、万引防止に効果がある。出荷会員も納品や補充時に実践してほしい。店も活気づく」と森岡事務局長は助言する。

—日経 MJ2021.7.17—